

プログラミング教育のねらいとは??

前号では、『プログラミング教育導入の社会的背景』について紹介しましたが、本号では、『プログラミング教育のねらい』について紹介します。

小学校におけるプログラミング教育のねらいは、今回の学習指導要領改訂で示された「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿って次のように整理されています。

- 「プログラミング的思考」を育むこと
- プログラムの働きやよさ、情報社会がコンピュータ等の情報技術によって支えられていることなどに気付くことができるようにするとともに、コンピュータ等を上手に活用して身近な問題を解決したり、よりよい社会を築いたりしようとする態度を育むこと

また、プログラミングを取り入れることで、各教科等の学びをより確実なものとすることもねらいとしてあげられています。

これらのねらいのもと、プログラミング教育に取り組むことにより、下図のような資質・能力を育むことができます。

プログラミング教育で育む資質・能力

<p>【知識及び技能】</p>	<p>身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気付かせること。 つまり・・・</p> <p>身の回りの機械の便利な機能は「魔法」ではなく人間がプログラミングによって作り出しているということに気付かせること</p>	
<p>【思考力、判断力、表現力等】</p>	<p>発達の段階に即して、「プログラミング的思考」を育成すること。 つまり・・・</p> <p>ものごとのしくみや手順を論理的に考え、試行錯誤しながら、うまくいく方法を探らせること</p>	
<p>【学びに向かう力、人間性等】</p>	<p>発達の段階に即して、コンピュータの働きを、よりよい人生や社会づくりに生かそうとする態度を涵養すること。 つまり・・・</p> <p>社会に必要なものがあれば、コンピュータを使って、自分の手で作り出すという発想をさせること</p>	

次号は、プログラミング的思考について具体的な授業展開例を取り上げて紹介します。